

可視化と観察から始めるバイオインフォマティクス

講師：飯田 慶 博士
(近畿大学 理工学部 生命科学科 講師)

医学研究支援センターは2021年11月11日をもって、開設10周年を迎えたのを記念し、支援センターを活用して成果をあげられた先生方にご研究・ご活動内容をご紹介いただくセミナー(MRSC Advanced User's Talk Series)をシリーズで開催します。

第9回目は、先年度まで医学研究支援センターでのバイオインフォマティクス研究支援の傍ら、ご自身の研究を精力的に進め、本年度より近畿大学に移られた飯田慶博士に、バイオインフォマティクス解析を進めるうえでのコツについてご講演いただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2022年9月7日(水) 15:00 - 16:00

定員：100名 (先着順)

開催形態：オンライン(Zoom)

申込方法：以下のURLからお申込みください。

<https://forms.gle/woBBTXBN4UGXTWon9>



申し込み用
QRコード

この説明会は「令和4年度
医学研究技術実習」
受講時間にカウントされず
受講時間：2時間



支援センター
HP



実習連絡用
メール
アドレス

1次々切：2022年9月6日(火)13:00

* 締め切り後、申込者全員にZoomのURLをメールでお知らせいたします

* 申し込みフォームからは当日13時まで申し込み可能です

===== 問い合わせ先 =====

京都大学大学院医学研究科 医学研究支援センター

メール：info@support-center.med.kyoto-u.ac.jp

URL：<http://support-center.med.kyoto-u.ac.jp/SupportCenter>

医学研究支援センターの活動は創薬等先端技術支援基盤プラットフォーム(BINDS)のサポートを受けています



講演要旨

高速シーケンサーの登場により、生体内のRNA分子の数や分子間相互作用の状況を定量化することが可能となり、これらを解析するためのバイオインフォマティクス解析の重要性はますます増えています。バイオインフォマティクス解析を行うためには、コンピュータスキルや統計学の知識等が必要で、「必要だけど始められない」という話を耳にすることも多いです。

飯田は京都大学・医学研究科の医学研究支援センターで約10年間、バイオインフォマティクス分野の受託解析や共同研究を行い、トレーニングの場の提供を行ってきました。これら通じて得た結論の1つは、バイオインフォマティクス分野での共同研究やラボでのバイオインフォマティクス解析の導入に共通して重要なのは、1) データの可視化・観察、2) 仮説生成、3) 仮説の検証、からなる解析サイクルをウェット・ドライの両方の担当者の関与の元で回していく、という点です。扱うデータが膨大・複雑なケースこそ、個々の遺伝子や現象の可視化・観察が解析全体の基盤として重要な役割を持ちます。今回は、RNA結合タンパク質SFPQの機能解析を行った研究(IIDA et al. 2020. *iScience*, 現在愛媛大学に所属されている武内章英教授との共同研究)や最近の研究活動から具体例を取り上げつつ、バイオインフォマティクス解析を進めるうえでの勘どころを紹介します。

